



つじ みつこ
辻 美津子

しみん
市民クラブ

市長公約の育休退園と医療費助成の課題は

問 市長は選挙公約で育休退園の解消と中学生までの医療費助成を打ち出された。平成27年4月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、津市でも全国的な課題である育休退園で困っている人が多いが、その対策をどうするのか。また子ども医療費助成について努力されてきたが、今後子育て支援として子育て世帯の経済的負担の軽減を図るべきだが、どう考えるか。

答 育休退園については、保護者の育休取得により保育園を退園させる現在の運用が、子どもにとっては環境の変化であり発達上好ましくない場合もあると思うことから、「津市子ども・子育て会議」にも意見を求め、考え方の理論的な整理を行っている。また保育園の定員の追加確保が必要となることから、来年度の受け入れ定員の確保に関する検証を行い、早急に方針を決定したいと考えている。また、子ども医療費助成については、中学生まで県の補助金の対象としていただけるよう要望しているが、県の補助金の拡充が期待できないことから、市の単独事業として新たに財政負担をしなければならないこととなるため、財源の確保について現在検討しているところである。

●その他の質疑・質問●

- 地域懇談会について
- 津市の教育について
 - 総合教育会議の内容、頻度、考え方は
 - 地域の防災拠点でもある学校の消防設備の保守点検は
- 久居地域の雇用促進住宅の今後について
- 合併合意20事業について
 - 新久居庁舎の案内について



▲総合教育会議の様子



はせがわ ゆきこ
長谷川 幸子

にほんきょうさんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

高齢者福祉施策・外出支援策の充実を

問 「丈夫で長生きしたい」は誰もの願いであるが、高齢者は健康不安を抱いている。居場所づくり・仲間づくりのための「たまり場」を街につくることが健康づくりには必要ではないか。さらに、高齢者や認知症の方の車の事故が増えているため、高齢者の移動手段としてコミュニティバスの無料化や寿バスカードの復活を。また、今後の認知症サポーターの活動と役割は。

答 地域で暮らす高齢者や障がい者の方を対象に、世代を超えた交流の居場所づくりとして、ふれあい・いきいきサロン事業を行っており、地域のボランティアの皆さんが主体となって、自宅から気軽に歩いていける場所に憩いの場をつくり、誰もが安心して健康で暮らせる地域づくりを目指している。

また、コミュニティバスを使った高齢者の外出支援策については、現在政策会議で検討・協議を進めている。

認知症サポーターについては、平成26年度までにサポーター研修を228回行い、延べ6,029人の方に受講いただいた。今後は徘徊高齢者等のSOSネットワークを作り、研修修了者にそこで活動してもらえるような取り組みを考えている。

●その他の質疑・質問●

- 公共交通基本政策について
 - 津市地域公共交通網形成計画での旧津市内の計画の具体化は
 - ぐるっとつーバス・高松山団地乗り合いタクシーへの支援策は
- ごみ問題を考える
 - 学校教育で身近なテーマとしてごみダイエット塾の開催を
 - 分かりやすいごみ分別の導入を



▲ぐるっと・つーバスで高齢者の移動手段の確保を